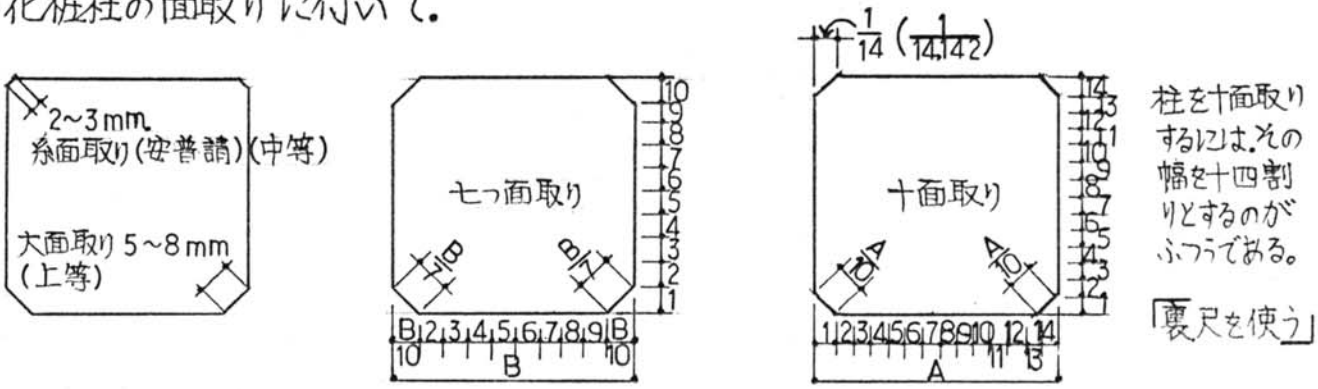
裂き．沈下．浮き上がり等を生じないようにすることが必要である。

日本古来の建物で真壁構造(土壁漆喰塗)で．構造材(化粧材)が露出し．意匠的に表現する構法であり．構造材が造作材を兼ねる場合が多いので特に部材の品質に注意を要する。　古い時代から木材保護の為の自然塗料を使用していた．湿度に対しては柱などの軒材が直接雨露にさらされることが多い反面通気性がよく乾燥も速く．防腐性に富んでいる。

◆化粧柱の面取りに付いて．



化粧柱の面取りは意匠的な性質が大きい。いがっさがない．特に柱が自然の中で建物内にあって．収縮や膨張をくりかえし自然と乾燥し柱の角(面取り部)が柱面より押し出された様になり角かけが発生する事がある。　柱の面取りは意匠的にも大切な事である。　(たとえ集成柱であっても上記の現象がおこる。)

◆大黒柱．蛭子(ひるこ)柱(小黒柱)に付いて．

一.大黒柱．二.大黒柱と呼ぶ地方がある。　大黒柱の位置は時代や地域によって異なるが．基本的に大黒柱は主屋の粗中心とし．十字型・T字型に架設し．大黒柱に対し四方向・三方向に建てる柱を蛭子柱(小黒柱)と云う。(2階迄のばす場合もある。)柱脚部から．足固め(框)・差鴨居(差楣)・差桁(差梁)等で柱面に横架材(差物加工)を架構．締め付け(独鈷締め)て建物全体を耐震．耐風(外力)から守る．一つの構造体である。　(社寺建築の身舎(母屋)と同じ考えの構造体である。)

大黒柱の大きさ．断面寸法は210～300mm(7寸～1尺)位で．蛭子柱(小黒柱)は大黒柱の7割位の大きさが多く使かわれていた。

◆化粧柱の仕上げ寸法に付いて．

最近迄は．化粧柱を専門に取り扱う木材店があり．注文寸法に仕上げが出来る様な寸法(1分位大きめ)の製品が納入されていた。(現在わずかに理解して(古い時代の手法)くれている木材店がある)。

最近の化粧材に付いては注文寸法は．仕上げ寸法より5mm(1～2分)大きい断面を注文するのが一般化している。　木材拾い出し明細には長さ.寸法.数量を明記するが．それ以外に必ず.必要長さ.仕上り断面寸法.を記載する。　品質で無節.上小節.小節等必要な面の表示は．通し柱では階ごとに分け.管柱では.上.中.下.と3段に分けて．一節ごとに必要とする面を図示すること。